様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　22　年　5　月　14　日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007 ～ 2009
課題番号：19530559
研究課題名（和文）　ジェンダー・ステレオタイプと性役割的偏見の再生産に関わる社会的認知研究
研究課題名（英文）　Social cognitive research in the roles of gender stereotypes and sexism on reproduction of gender system

研究代表者
沼崎　誠（NUMAZAKI MAKOTO）
首都大学東京・人文科学研究科・准教授
研究者番号：10228278

研究成果の概要（和文）：
ステレオタイプと偏見の機能－特にシステム正当化機能－と自己ステレオタイプ化に注目して，ジェンダー・システムの再生産過程における，ジェンダー・ステレオタイプと性役割的偏見の役割について実証的研究を行った．システム正当化機能に関しては現システムへの脅威や死すべき運命や異性愛が顕現化した状況で，自我正当化機能に関しては自尊心への脅威状況で，集団正当化機能に関しては特定の自己表象が活性化した状況で，ステレオタイプ化や偏見が強まることを見いだした．ジェンダー・システムを再生産の観点からこれら結果について考察した．

研究成果の概要（英文）：
We conducted empirical research in the roles of stereotyping and prejudice in reproduction processes of gender system by focusing on functions of stereotypes and prejudice and self-stereotyping. We found that (1) threat to status quo, mortality salience, and heterosexuality salience strengthen self- and other-stereotyping and sexism, (2) threat to self-esteem strengthen stereotyping and sexism which men exhibit, and (3) activation of specific gender-related self-representation strengthen stereotyping and sexism which women exhibit. We discussed these findings in terms of reproduction of gender system.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2008 年度	800,000	240,000	1,040,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
総　計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：心理学・社会心理学
キーワード：社会系心理学，社会的認知，ジェンダー，性役割的偏見，ステレオタイプ，社会的自己，システム正当化

１．研究開始当初の背景

平成 11 年に男女共同参画社会基本法の制定・施行，および，男女雇用機会均等法の改正が実施され，性役割的偏見や差別を無くそうとする社会情勢にある．このような中で「男女平等」ということに正面切って反対を

唱えることは少なくなってきている．しかし，現代の若者においても性役割的偏見や差別がなくなっているとは言えない．その背景には，ジェンダー・ステレオタイプが自己認知や他者認知において重要な役割を果たしていることがある．

本研究では，ジェンダー・ステレオタイプが，意識的にも無意識的にも，自己や他者に適用される過程－自己ステレオタイプ化（self-stereotyping）と他者へのステレオタイプの適用－と性役割的偏見が状況に応じて出現することを明らかにし，ジェンダー秩序の再生産という大きな問題を解決する手がかりを得ることを目指した．

近年のジェンダー・ステレオタイプや偏見の研究では，①a)男性/女性という単純なステレオタイプがあるのではなく，家庭志向女性やキャリア志向女性といったサブカテゴリー・ステレオタイプが広く存在していること，b)そのサブカテゴリー・ステレオタイプは「作動性」と「共同性」という次元で理解できること，c)サブカテゴリー・ステレオタイプはポジティブな側面とネガティブな側面の双方を含むアンビバレントなものであること(e.g., Glick & Fiske, 2001)，②a)状況要因が意識的な過程ばかりでなくステレオタイプの活性化といった自動的過程にも影響を及ぼすこと，b)ステレオタイプの自動的活性化や適用に影響を与える要因として，ステレオタイプの機能に関連した目標が重要であること，c)機能に関連した目標として，自己や内集団への脅威の防衛/他者の理解/平等主義目標，などが重要であること(e.g., Blair, 2002; Kunda & Spencer, 2003)，③ジェンダー・ステレオタイプの理解には，支配と家父長制/親密な関係と敵対的関係といった社会構造の理解が不可欠であること(e.g., Glick & Fiske, 2001)，が実証的に示されている．

申請者が平成 15～17 年度で科研費の補助を受けて行った一連の研究（「潜在的性役割的偏見の発現とジェンダー・ステレオタイプの受容における心理過程の検討」）では，これらの知見を現代日本人の若年層男女が持つジェンダー・ステレオタイプと偏見に適用し検討をおこなった結果，欧米での知見を日本でもおおむね確認することができた．

２．研究の目的

本研究は，前記科研費を受けて行った一連の研究の知見を，自己ステレオタイプ化と偏見・ステレオタイプの機能－特にシステム正当化機能－に注目し，拡張することを試みた．

ステレオタイプと偏見の機能として，カテゴリー化機能，自我正当化機能，集団正当化機能，システム正当化機能が指摘されている．本研究では，これら機能を念頭に置いて，これまであまり検討されてこなかった状況でも，偏見やステレオタイプ化の強化が生じることを検討することが第 1 の目的である．

自己ステレオタイプ化とは，既存のステレオタイプを自己概念に取り込み，それによって自己を規定することを指す．近年では，社会的自己研究における関係的自己の研究領域でも研究が行われている．重要な他者の表象が活性化されるだけで，その重要他者が自己に対して期待するステレオタイプが自己の表象に取り込まれる過程や，プライムされた概念が行動として現れる自動的過程においても，ステレオタイプに沿った自己表象の変化が重要な役割を果たしていることが示されている(e.g., DeMarree, Wheeler, & Petty, 2005; Levy, 1996)．この自己ステレオタイプ化が，ステレオタイプや性役割的偏見の再生産にどのように寄与しているかを検討することが第 2 の目的である．

そこで，本研究では，ステレオタイプと偏見の機能に基づき，状況依存的なジェンダーに関わる自己ステレオタイプ化と他者へのステレオタイプの適用や偏見が生じる状況を明らかにするとともに，どのような結果を生じさせるかを明らかにすることを試みた．

システム正当化機能に関しては，①死すべき運命が顕現化した状況でのジェンダー・ステレオタイプ化と性役割的偏見を検討し，文化的世界観の正当化機能を果たすことを実証的に示すことを目指した（研究成果(1)）．②現状のシステムに対して脅威を与えた状況でのステレオタイプ化と偏見を検討して，現状のシステムの正当化機能を果たすことを実証的に示すことを目指した(2)．③ジェンダー・システムの基盤となる異性愛が顕現化した状況での自己ステレオタイプ化や性役割的偏見を検討し，相補的な性役割の再生産を生み出す機能を果たすことを実証的に示すことを目指した(3)．

自我正当化機能に関しては，自己に対する脅威を与えた状況で潜在的ステレオタイプ化や潜在的偏見が生じるかを検討し，また，この過程を調整する要因を検討することにより，潜在的ステレオタイプ化や偏見が自我正当化機能を果たすことを実証的に示すことを目指した(4)．

集団正当化機能に関しては，女性のジェンダー関連自己の表象の活性化が，その表象に合致する女性と合致しない女性に対する偏見やステレオタイプ化を検討することにより，集団正当化機能を果たすことを実証的に示すことを目指した(5)．

カテゴリー化機能に関しては，反ステレオタイプ事例がステレオタイプの低減に及ぼす効果を検討することにより，カテゴリー化機能を果たすことを実証的に示すことを目指した(6)．

３．研究の方法

文献研究を踏まえて，主に実験を用いて実証的な検討をおこなった．具体的手続きは，研究成果とあわせて記述する．

４．研究成果

(1) 文化的世界観の正当化

研究 1-1 では，性役割観を測定しておいた男性参加者に，死すべき運命の顕現化（MS）の（vs. 統制）操作を行った後，伝統的女性と非伝統的女性の頻度を予測させた．結果として，伝統的性役割観を持つ男性は，統制条件に比べ MS 条件で伝統的女性の頻度を高く，非伝統的女性の頻度を低く評定した．この結果は，伝統的性役割観を持つ男性は，反ジェンダー・ステレオタイプ事例をサブ・タイプ化することにより，文化的世界観の正当化を行うことを示唆している．

研究 1-2 では，性役割観を測定しておいた男女大学生に，MS（vs. 統制）操作を行った後，将来の収入と将来の子どもの数を予測させた．結果として，MS 条件では性別に関係なく，伝統的性役割観を持つ参加者では子どもの予測数が増え，平等主義的性役割観を持つ参加者では将来の予測収入が高まった．この結果は，性役割観の相違により異なった方法で自己が持つ文化的世界観を防衛することを示唆している．

(2) 現システムの正当化機能

研究 2-1 では，日本の犯罪状況が悪化している（vs. していない）という情報を与えられた参加者は，日本の現状を良いと評定することを見いだした．この結果は，日本人においても現システムを正当化しようとする動機があることを示している．

研究 2-2-1,2 では，性役割観を測定しておいた男女参加者で，日本の脅威となる（vs. ならない）外国を顕現化した時の慈愛的偏見を測定した．結果として，男性参加者では性役割観とは関係なく，脅威条件で慈愛的偏見が強くなり伝統的女性に対する好意が高くなった．一方，女性参加者では，伝統的性役割観を持つ女性においてのみ，男性と同様の結果が得られた．この結果は，日本システムに対する脅威があると，一見無関係に見える性役割的偏見を用いて，現システムを防衛しようとすることを示唆している．

研究 2-3 では，ジェンダー・ステレオタイプを表明（男性ステレオタイプ vs. 女性ステレオタイプ vs. 統制）した後の日本の現状の正当性認知を測定した．結果として，男性参加者では女性に対してポジティブなステレオタイプを表明するほど日本のシステム正当化認知が高まった．この結果は，一見無関係に見えるジェンダー・ステレオタイプが日本のシステム正当化機能を持つことを示唆している．

(3) 異性愛とジェンダー・システムの再生産

研究 3-1 では，性役割観を測定しておいた男性参加者の，異性愛が顕現化（vs. 統制）した時の潜在的自己ステレタイプ化を，潜在連合テスト（IAT）で測定した．結果として，平等主義的性役割観を持つ男性では，異性愛が顕現化するとジェンダー・ステレオタイプ的に自己と特性を連合させるようになった．この結果は，女性に対するステレオタイプの適用の先行研究の結果と対応し，異性愛が顕現化した状況では，他者ばかりではなく自己にもステレオタイプを適用することを示している．

研究 3-2-1 では，調査により重要他者のジェンダー期待に合致するように自己呈示を変容するのは，自尊心の低い女性であることを見いだした．研究 3-2-2 では，自尊心を測定しておいた女性参加者に対して，恋人概念を閾下プライミングするかしないかを操作して，「おしとやか」概念の活性化を語彙判断課題によって測定した．結果として，自尊心の低い参加者においてのみ，恋人概念をプライミングした時に「おしとやか」概念が活性化していた．研究 3-2-3 では，研究 3-2-2 と同じ操作をした後に，従属変数として，女性参加者の摂食量を測定した．結果として，自尊心の低い参加者においてのみ，恋人概念をプライムすると摂食量が低下することが見られた．これらの研究の結果は，異性愛が顕現化すると，少なくとも自尊心の低い女性においては，伝統的性役割観に合致した自己呈示目標が活性化し，自己ステレオタイプ化が生じ，伝統的性役割に従った行動が自動的に行われることを示唆している．

研究 3-3 では，異性愛を顕現化（vs. 統制）した時の家庭志向女性とキャリア志向女性に対する評価について，自己概念との関連を中心に検討した．結果として，異性愛が顕現化するとジェンダー・ステレオタイプ的な評価が強まったが，男性性の自己表象によりこの効果は調整されていた．自己を男性的と捉えている参加者は家庭志向女性をより女性的に評価する方向で，自己を男性的でないと捉えている参加者はキャリア志向女性をより男性的に評価する方向で，それぞれジェンダー・ステレオタイプ的な評価を強めていた．この結果は，自己表象のありようによって異なった方法で，男女の相補性を前提とするジェンダー・システムを防衛することを示唆している．

研究 3-4 では，女性が持つ異性愛に関わるロマンティック幻想－パートナーにファンタジー物語の登場人物（e.g. 白馬の王子）を重ね合わせる傾向－について調査研究を行った．研究 3-3-1 では，女子大学生を参加者

にして，質問紙により顕在的な，IAT により潜在的なロマンティク幻想を測定し，家庭志向やパートナーへの依存傾向を質問紙により測定した．結果として，潜在的なロマンティク幻想を持つ女性ほど依存傾向が強く，顕在的なロマンティック幻想を持つ女性ほど家庭志向が強かった．研究 3-3-2 では，育児中の既婚女性を参加者にして，顕在的/潜在的ロマンティク幻想を測定し結婚生活満足感や育児幸福感を測定した．結果として顕在的ロマンティク幻想が高い女性ほど結婚満足度が高く，潜在的ロマンティク幻想が高いほど結婚満足度が低いことが見いだされた．これら研究の結果は，異性愛に関わる性役割的顕在的信念ばかりでなく潜在的信念が女性の将来志向や結婚幸福感に影響を及ぼすことを示唆している．

(4) 自我正当化機能

研究 4-1 では，IAT によってジェンダーに関わる潜在的内集団バイアスを検討した．研究 4-1-1 で，女性では潜在的内集団バイアスが見られるが，男性では潜在的内集団バイアスが見られないことが明らかとなった．研究 4-1-2 では, IAT の刺激項目のステレオタイプ性により，潜在的内集団バイアスが影響を受けることが明らかとなった．

研究 4-2 では，課題遂行に対するネガティブなフィードバックにより自我脅威を与えた（vs. 与えなかった）男性参加者の，潜在的ジェンダー関連内集団バイアスを IAT で測定した．結果として，統制条件では見られない内集団バイアスが自我脅威条件では生じることが見いだされた．

研究 4-3 では，シングル・カテゴリーIAT を使用することにより，内集団高揚と外集団蔑視を区別して，自我脅威状況におかれた男性の潜在的内集団バイアスを検討した．結果として自我脅威状況におかれた男性は，統制条件の男性に比べて，外集団蔑視は行うが（4-3-1），内集団高揚は行わないことが示された（4-3-2）．また，自我脅威の影響は自尊心の高い参加者において顕著であることも見いだされた．これらの結果は，男性が女性に対して示す偏見が自我正当化機能を果たすことを示唆している．

研究 4-4 では，脅威状況におかれた男性参加者の潜在的女性蔑視がジェンダー・カテゴリーの顕現化の影響を受けるかを検討した．ジェンダー・カテゴリーを顕現化した場合に見られた脅威時の内集団バイアス強化が，カテゴリーの顕現化を低下させると，見られなくことが明らかとなった．

研究 4-5 では，ジェンダー・カテゴリーの操作をして男性の女性に対する偏見やステレオタイプの変容に及ぼす効果を検討した．男女の弁別性を高めた後で，男女を共通カテゴリーに含める操作をすると，顕在測度においては男性の女性に対する好意が高まること（4-5-1），潜在測度においてはジェンダー・ステレオタイプが強化されることが見いだされた（4-5-2）．これらの結果は，顕在的な偏見の低減という望ましい効果が潜在的なステレオタイプの強化を伴う可能性を示しており，性差別の解消の困難さを示唆する．

(5) 自己ステレオタイプ化と集団正当化機能

研究 5-1 では，重要他者の期待によるジェンダー関連自己ステレオタイプ化について女性を参加者にして検討した．研究 5-1-1 では，重要他者のジェンダー関連期待とジェンダー関連自己概念の変化の関係を検討した．結果として，伝統的性役割観を持つ女性のみ，男性的特性において，重要他者の期待に沿った方向に重要他者といる時の自己概念が変化することが見いだされた. 研究 5-1-2 では，母親をプライム（vs. 無関連プライム）してジェンダー関連自己概念の変化を測定した．結果として，伝統的性役割観を持つ女性でのみ，母親がプライムされると，男性的ポジティブ特性で，母親の期待に沿った方向に自己概念が変化することが見いだされた．

研究 5-2 では，母親のジェンダー関連期待を測定しておいた参加者に，母親をプライム（無関連プライム）した時の，伝統的女性と非伝統的女性に対する偏見やステレオタイプの適用を顕在測度を用いて測定した．結果として，母親プライム条件では，母親に期待されている性役割女性に対してより好意を向けるようになり，伝統的性役割観を持つ女性ではよりステレオタイプを適用するようになった．ただし，母親プライムの操作が有効な参加者においてのみ効果が見られた．

研究 5-3 では，性役割観と母親のジェンダー関連期待を測定した参加者に，母親プライム（vs. 無関連プライム）した時の，伝統的女性と非伝統的女性に対する潜在的偏見やステレオタイプを, IAT を用いて, 測定した．結果として，潜在的偏見は参加者が持つ性役割観により規定され，自分の性役割観に合致した女性に対して好意を持った．一方，伝統的性役割観を母親に期待されている参加者は，母親プライムされると，ステレオタイプの適用が強まった．

これら一連の結果は，重要他者が顕現化すると，重要他者の期待に沿った自己ステレオタイプ化が生じ，この自己規定に沿った．集団間バイアス的偏見やステレオタイプ適用が生じることを示すものであり，自己ステレオタイプ化において重要他者の期待が重要であることを示唆するとともに，ステレオタイプが集団正当化機能を果たすことを示唆するものである．

(6)カテゴリー化機能

研究 6-1 では，カテゴリーが無効であることを示す反ステレオタイプ事例（有能な女性）がジェンダー・ステレオタイプの変容に及ぼす効果について検討した．自尊心を測定していた男子大学生に競争状況（vs. 絶対評価状況）で反ステレオタイプ事例（vs. 無関連情報）を呈示し，その後，潜在的/顕在的ジェンダー・ステレオタイプを測定した．結果として，顕在/潜在測度の両方で，自尊心が低い参加者においてのみ反ステレオタイプに接するとステレオタイプが弱まり，自尊心が高い参加者ではステレオタイプが強まる傾向が見られた．また，競争状況の方で顕在的ステレオタイプの低減が見られた．これらの結果は，反ステレオタイプ事例がステレオタイプを弱める効果を持つこともあるが，サブ・タイプ化されステレオタイプが強化されるときもあることを示唆している．

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　4 件）

1. 麻生奈央子・沼崎誠 (2010). 潜在・顕在的なロマンティック幻想と結婚満足感　パーソナリティ研究, **18**, 244-247.
2. 沼崎誠 (2010). 死すべき運命の顕現化が日本人男子大学生の性役割的偏見に及ぼす効果 首都大学東京 東京都立大学 人文学報, **425**, 15-30.
3. 石井国雄・沼崎誠 (2009). ジェンダー態度 IAT におけるステレオタイプ的な刺激項目の影響　社会心理学研究. **25**, 53-60.
4. 高林久美子・沼崎誠・小野滋・石井国雄 (2008). 活性化した自己表象が女性サブカテゴリーへの偏見とステレオタイプに及ぼす効果　心理学研究, **79**, 372-378.

〔学会発表〕（計　23 件）

1. Numazaki, M., Ishii, K., Sasaki, K., Amano, Y. & Takabayashi, K. (2010). *The effects of priming of a threatening out-group on men's benevolent sexism and gender-related self-stereotyping.* Presented poster at The 11th annual Society of Personality and Social Psychology conference, Las Vegas, USA.
2. Ishii, K. & Numazaki, M. (2010). *Does reducing intergroup bias lead to group-based stereotyping?* Presented poster at The 11th annual Society of Personality and Social Psychology conference, Las Vegas, USA.
3. Numazaki, M., Ishii, K., Sasaki, K., Amano, Y. & Takabayashi, K. (2009). *The effects of priming of a threatening out-group on women's benevolent sexism.* Presented poster at The 10th annual Society of Personality and Social Psychology conference, Tampa, USA.
4. Ishii, K. & Numazaki, M. (2009). *Effect of saliency of gender category on threatened men's automatic derogation toward women.* Presented poster at The 10th annual Society of Personality and Social Psychology conference, Tampa, USA.
5. Takabayashi, K. & Numazaki, M. (2009). *The impact of the significant other's expectancies on self-stereotyping.* Presented poster at The 10th annual Society of Personality and Social Psychology conference, Tampa, USA.
6. 沼崎誠・石井国雄（2009）．日本の犯罪状況の悪化情報が現システムの正当性認知に及ぼす効果　日本心理学会第 73 回大会発表論文集, 116.
7. 沼崎誠・髙林久美子・石井国雄・佐々木香織・天野陽一（2009）．性役割的偏見とジェンダー・ステレオタイプのシステム正当化機能（ロング・スピーチ）日本社会心理学会第 50 回大会 日本グループ・ダイナミックス学会第 56 回大会 合同大会発表論文集, 58-61.
8. 沼崎誠・髙林久美子・石井国雄・佐々木香織・天野陽一（2009）．システム脅威となる外集団の顕現化が女性サブカテゴリーに対する男性の偏見とステレオタイプ化に及ぼす効果　日本社会心理学会第 50 回大会 日本グループ・ダイナミックス学会第 56 回大会 合同大会発表論文集, 462-463.
9. 石井国雄・沼崎誠（2009）．自己のポジティブ/ネガティブな出来事の想起が潜在的な態度に及ぼす効果の検討　日本社会心理学会第 50 回大会 日本グループ・ダイナミックス学会第 56 回大会 合同大会発表論文集, 454-455.
10. Numazaki, M., Takabayashi, K., & Amano, Y. (2008). *Automatic self-presentational behavior: The subliminal priming effects of romantic relationships on activation of feminine constructs and on subsequent eating behavior among women.* Presented poster at The 9th annual Society of Personality and Social Psychology conference, Albuquerque, USA.
11. Ishii, K., & Numazaki, M. (2008). *The effects of threat of self worth on males' implicit ingroup-outgroup bias related to gender.* Presented poster at The 9th annual Society of Personality and Social Psychology conference, Albuquerque, USA.
12. 沼崎誠（2008）．自己呈示行動の自動性と自尊心による調整効果－異性愛関係の閾下プライミングが女らしさ自己呈示目標の活性化と摂食行動に及ぼす効果－ 日本グループ・ダイナミックス学会第 55 回大会発表論文集, 6-9.

13. 沼崎誠・高林久美子（2008）. 重要他者のジェンダー期待にあわせるのはどのような女性か？－平等的性役割観の調整効果－ 日本心理学会第 72 回大会発表論文集, 206.
14. 石井国雄・沼崎誠（2008）. 自己の対人的特性に対する脅威が男性の潜在的な女性ステレオタイプ化に及ぼす効果の検討 日本心理学会第 72 回大会発表論文集, 239.
15. 麻生奈央子・沼崎誠（2008）. 潜在・顕在的な異性愛の幻想と結婚満足感の関係 日本教育心理学会第 50 回大会発表論文集, 463.
16. 高林久美子・沼崎誠（2008）. 自己表象の顕現化が女性に対する偏見とステレオタイプ化に及ぼす効果 －Implicit Association Test を用いた検討－ 日本社会心理学会第 49 回大会発表論文集, 70-71.
17. 長田眞由子・沼崎誠（2008）. 反ステレオタイプ的情報のステレオタイプ的連合低減効果に競争マインドセットが及ぼす効果 日本社会心理学会第 49 回大会発表論文集, 314-315.
18. 沼崎誠・高林久美子・天野陽一（2007）. 異性愛の顕現化が伝統的女性と非伝統的女性に対する偏見とステレオタイプ化に及ぼす効果 日本グループ・ダイナミックス学会第 54 回大会発表論文集, 38-41.
19. 沼崎誠・高林久美子・天野陽一（2007）. 死すべき運命の顕現化と性役割観が大学生の人生設計に及ぼす効果, 日本心理学会第 71 回大会発表論文集, 226.
20. 石井国雄・沼崎誠（2007）. Implicit Association Test を用いたジェンダーに関わる潜在的な内集団バイアスとステレオタイプ化 日本心理学会第 71 回大会発表論文集, 211.
21. 沼崎誠（2007）. 異性愛の顕現化が男性のジェンダー関連自己ステレオタイプ化に及ぼす効果 日本社会心理学会第 48 回大会発表論文集, 94-95.
22. 石井国雄・沼崎誠（2007）. 自尊心脅威状況におけるジェンダーに関わる潜在的な偏見・ステレオタイプ化の検討 日本社会心理学会第 48 回大会発表論文集, 242-243.
23. 沼崎誠（2007）.両面価値的ステレオタイプ/セクシズムのシステム正当化機能と状況依存性（ワークショップ「両面的ステレオタイプ研究の発展」話題提供者） 日本社会心理学会第 48 回大会発表論文集, 19.

〔図書〕（計 1 件）

沼崎誠 (印刷中). ステレオタイプと社会システムの維持 村田光二（編）「認知心理学講座第 6 巻 社会と感情」 北大路書房

〔その他〕

ホームページ
http://www27.atwiki.jp/numazaki/pages/28.html

６．研究組織

(1)研究代表者

沼崎 誠（NUMAZAKI MAKOTO）
首都大学東京・人文科学研究科・准教授
研究者番号：10228273

(2)研究協力者

天野 陽一（AMANO YOICHI）
首都大学東京・人文科学研究科・助教
研究者番号：90571886
高林 久美子（TAKABAYASHI KUMIKO）
一橋大学・社会科学研究科・D3
石井 国雄（ISHII KUNIO）
首都大学東京・人文科学研究科・D3
麻生 奈央子（ASO NAOKO）
お茶の水女子大学・人間文化創成科学研究科・D1
佐々木 香織（SASAKI KAORI）
首都大学東京・人文科学研究科・M2
長田 眞由子（NAGATA MAYUKO）
一橋大学・社会学研究科・M2